西垣文庫
文庫10
6729

天保十五年
寅正月吉日
山崎四郎村
遊歌久吉

第八冷

高砂

とをちかの浦のあけぼの月も
ゆくすえを名そ久しき　作者未詳

九州ひごの国おそれ矣のうん
ねしこもたれわとゝ我すゑの我
いまくらやこゝをいねみぬ夜な

西源文庫

文庫10
6729

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むりのさもかなしそうにて
白雪のふりくるあひのうちの
紅葉ちる水ぬまの
のおきのよもの松風
ばとそよぐ
あり井戸とうち浦
風のおちらしあ
とりけのちりと
あるさとのかく屋
くぽひけるあ
はものおちらくなる
えぬいつあるいの

落葉のかく　里人をあひ待所に
老人ふうふきたれり　いかにこれなる
人に尋ぬべき事の候　こなたの事
にて候か何事にて候ぞ　高砂の
松とはいづれの木を申し候ぞ　たゞいま
木陰をきよめ候こそ高砂の松にて候へ

高砂住吉の松に相生の名あり
当所と住吉とは国を隔てたるに
何とて相生の松とは申候ぞ　仰
のごとく古今の序に
高砂住の江の松も相生のやうにおぼえ
去ながら此尉は津の国住吉の者

先おもふぞ祇園の人あまたあつまりて
あらがやさし　かしこや人々は数々
乃かう毎一かよふかきてさもを
これはそれ神の浦山を愛でゝも
むとりかいたすのやん　ひきての
給ひやざんせんげんとゆきおまちかな

あかりひよみふくはりぬいりせ乃
まちうくとしれ　出んかれてもむ
らんげてよ　高砂までには乃舟
情の物さまと生乃ゐにちかり
ぞまして生まれて年久あって
行きうしせひきれかさ蔵さうて

松もろともにひきそおせ笠のうら波
こゝろつくしにまさりて
と歌詠といとゝ面白く詠
さて笠の松乃枯葉ぞ
ふりくいとゝさら 前大人
のゝしいとゝ
たさめふし
代のゆかしきもの

あしのき 紅葉戸 冷泉みな
紅葉 松葉代
ゆかしきもの
云乃ふし 高
みとあるひ
みとあり 絵
いとゝあひ
ひろやかく西乃海の りこと

のにあらたなる代とも又あ
妻も のどかに四海なみしづかにて
国もおさまる時つ風えだをならさ
ぬ御代なれやあひにあひおひの松こ
そめでたかりけれげにやあふぎてもこ
ともおろかやかゝる代にすめるたみとて

ゆたかなる君のめぐみぞありがたき
ワキ 猶々高砂の松のいはれを委細に
申候へ それ草木は心なしとは申せども
花実の時をたがへずやうしゆんのと
くをそなへてなん枝花始てひらく
サシ されども此松はそのけしきとこしな

しそくはうたう時と
なりて　月の時
なりてもこゝろ
くくはれ花の
の　乃　ことく
ぱらとも　ぱらつよ　ぱらとは
ぱうひやう　ぱうひやう
よりすぐ　ぱるよ
あん　方　河のこゝろ
たゝ　の　ぱうひやう
乃　ぱ　ぱ

[illegible]

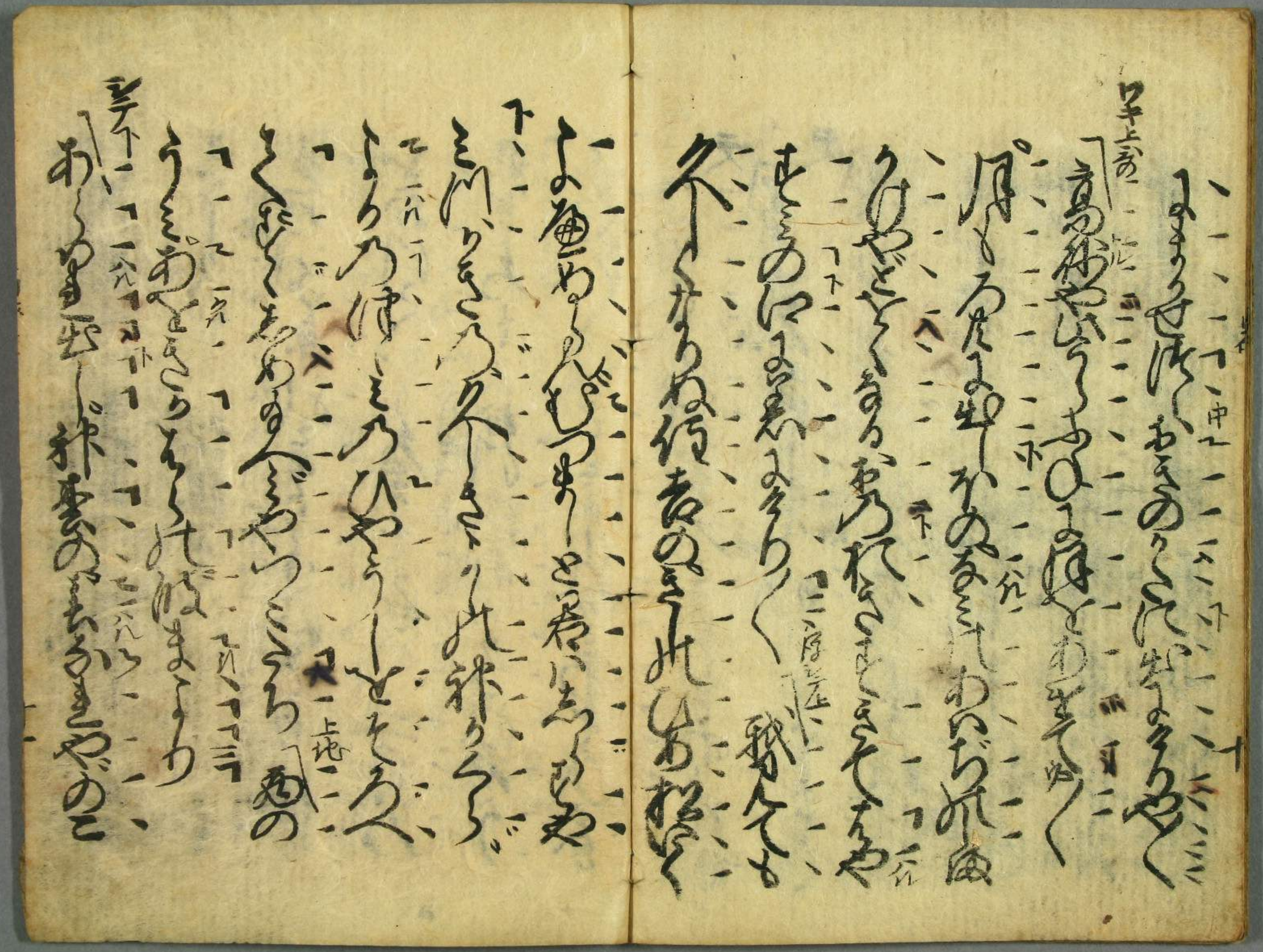
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

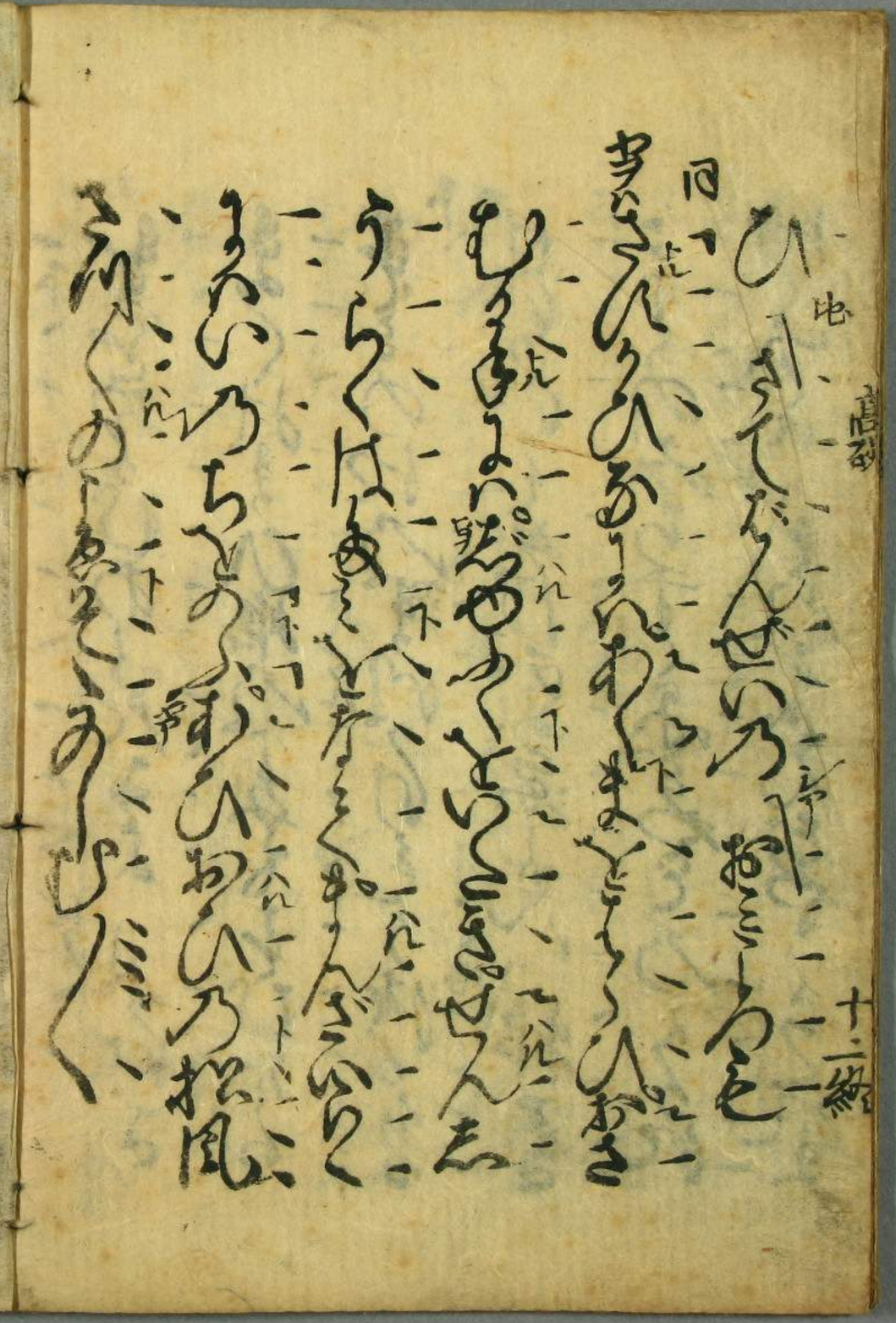
[illegible]



[illegible]

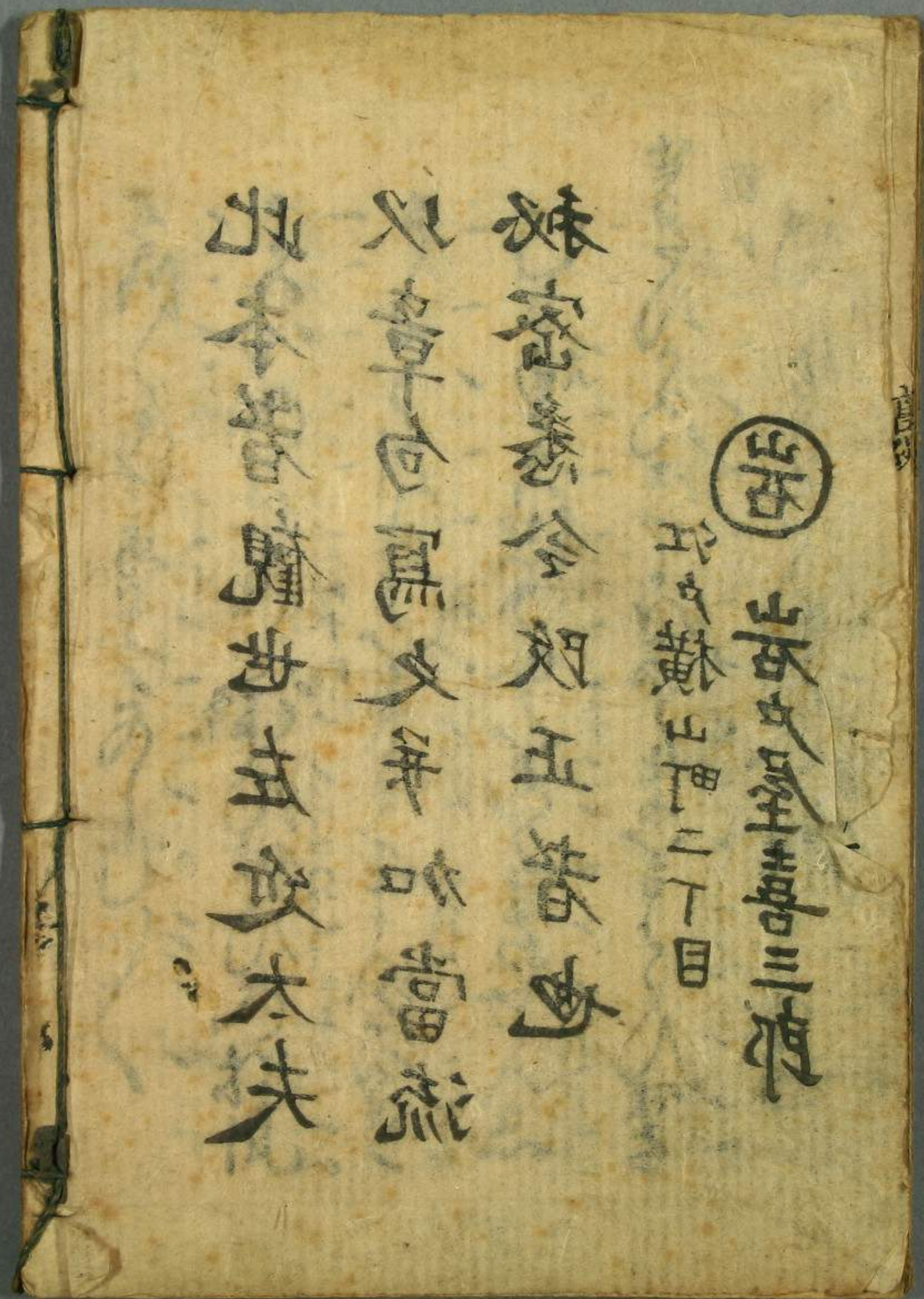
[illegible]

[illegible]



此本者觀世左近太夫
以章句寫之并加當流
秘密悉令改正者也

山石
江戸横山町二丁目
山岩戸屋喜三郎



西

山城文書三冊
目録正西二丁目

姉密義令改五番目
以寛文年中當流
北本密教大夫